

明治期から大正期の地方行政には、県と市町村の間に郡が存在していた。郡の行政官庁は郡役所であり、府県庁の統治下で町村の指導監督にあたった。郡役所は地域の要だったため、たびたび移転をめぐって紛争があった。上北郡でも郡役所が置かれた七戸村（現七

戸町）と野辺地町の間で争いが起きている。町制施行したばかりの野辺地町は、近世期以来の海運の拠点を活かし、東北線の開通で流通網が拡大するのを見込み、郡役所の移転を主張した。これに対し七戸村は、明治維新後に七戸藩が置かれた経緯から反対。



七戸城跡と七戸小学校

（1960年代・県史編さんグループ所蔵）
 小学校は1970（昭和45）年に新校舎へ移転する。左側の小さな建物が旧奉安殿。

1898（明治31）年11月下旬、郡役所の移転問題をめぐる郡会で、野辺地町の関係議員へ襲撃を加えた。村を挙げての一大阻止運動の結果、郡役所の移転は阻止された。上北郡の中心地としての名目を保った七戸村は、4年後の1902（明治35）年9月1日に町制施行を遂げている。

立行政法人家畜改良センター奥羽牧場となっている。広大な牧場を貫く道路沿いには、延々と松並木が続いている。その姿は実に雄大だ。この松並木は記念物等に指定されておらず、町の観光ガイドにも紹介されていない。牧場の北端にある銀南木や、七戸城跡のモミと杉（写真参照）など、町内には巨樹・古木が多く、いずれも文化財級の扱いを受けている。この松並木も、それらに匹敵するだろう。こうした雄大な風景を有する七戸町は、一方で繊細さも兼ね備えている。かつて上北郡役所が置かれた七戸町の中心街には、七戸郵便局をはじめ、戦前からの古い建築物や伝統的な住宅が数多く残っている。七戸の地酒を造る盛庄酒造、駒まんじゅうで有名な田重菓子舗や御菓子のみやきんなど、老舗の菓子屋さんも存在する。七戸城跡や七戸

雄大と繊細

上北郡の古都七戸町

中園 裕

（県民生活文化課
 県史編さんグループ 主査）

その後、大正期に郡制は廃止され上北郡役所も閉所する。だが港町たる野辺地町とは対照的に、七戸町は軍馬の供給地として重視される。奥羽種馬牧場をはじめ、町の郊外に広大な牧野が広がっているのは、七戸町が軍馬の町だった証拠である。

現在、奥羽種馬牧場は独

神明宮、青岩寺や瑞龍寺、ツツジで有名な天王神社など、神社仏閣や名所旧跡にも事欠かない。

中でも七戸城跡にある旧奉安殿は貴重な存在だ（写真参照）。戦後GHQの神道指令により大半の奉安殿は解体された。だがこの建物は七戸神明宮が郷友館として管理してきたため残っているのである。知られざる七戸町の歴史遺産といえるだろう。

郊外の雄大な原野と対照的に、中心街には繊細かつ古風な街並みが存在する。瑞龍寺から作田川を渡り中心街へ向かう風景などは、京都の郊外を彷彿させる。七戸町はまさに上北郡の古都といえるだろう。

七戸町は天間林村と合併し、町内には新幹線の駅ができる。それに向けて新たな街作りが検討されている。駅周辺の街並みも大きく変貌している。けれども上北郡の古都としての風情は、守り続けていって欲しいと思うのである。